

中核病院形成検討委員会の役割等について

1 背景

◎萩保健医療圏の医療体制の維持が困難

萩医療圏は、医師、看護師等の医療従事者の高齢化及び不足が深刻な問題となっています。

特に、圏域内で、緊急や重症の患者に対して専門的な医療を行う急性期病院が、いずれも中・小規模のため、がん、脳疾患、心疾患など専門的な疾病に対する医療が不足・分散しており、症例数も少なく、医師の確保が困難な状況です。

このまま医師が不足すると、萩医療圏の医療体制は維持できなくなる危機的状況に陥っています。

◎医療体制を維持するために中核病院が必要

今後、市民の皆さんが地域で安心して医療を受けられる体制を維持していくためには、急性期医療や二次救急医療について圏域内で完結できるような医療機能を有し、へき地医療を支援する役割を果たすなど、民間病院では担うことが困難な医療を担う中核病院が必要です。

◎中核病院の形成には病院統合が有効な手段

圏域内で唯一の公立病院である萩市民病院は、病床数が 100 床と小規模なため、中核病院として十分な役割を果たすことはできません。

そのため、萩医療圏の限られた医療資源を効率的に活用し、急性期医療を担う民間病院と統合することが、最も有効な手段と考えられます。

病院統合は、医師の体制を再編することで、症例数が増加し、高度な技術を要する手術もできるようになります。医師のモチベーションが高まり、医療の質が向上するほか、看護師も教育体制の充実や看護体制の強化等により、魅力ある病院として医療従事者の確保につながることを期待されます。

◎これから中核病院のあり方を検討

こうしたことから、急性期病院の統合について協議した結果、都志見病院が萩市民病院との統合の意向を示したことから、中核病院の形成に向けて協議を始めることになりました。

そして、このたび、中核病院の形成に向けて検討する「中核病院形成検討委員会」を設置し、萩医療圏において中核病院としての役割を果たすためにどのような病院にするのか検討することになりました。

※中核病院とは …一般的に中核病院の定義はありませんが、萩保健医療圏においては、急性期医療及び二次救急医療について圏域内で完結できるほか、へき地医療の支援や災害時の拠点病院として、萩医療圏の中心となる持続可能な病院を中核病院として定義しています。

2 検討委員会の役割

萩保健医療圏における中核病院の形成に向け、萩市民病院と都志見病院の統合による中核病院のあり方を検討する。

※1 この検討結果を基に、中核病院形成基本方針（仮称）を萩市が作成する。

※2 検討委員会での検討状況は、適宜、議会や市民に報告する。

3 主な検討内容（予定）

- (1) 基本的な方向性
- (2) 経営形態
- (3) 診療科目、医療機能、病床規模
- (4) 2病院の機能分化、施設の活用方法
- (5) 経営シミュレーション

4 開催スケジュール（予定）

第1回 現状認識と経営形態 【1月31日】

- ①基本的な方向性 →検討
- ②経営形態 →検討

第2回 医療機能等① 【3月30日】

- ①基本的な方向性 ⇒**決定**
- ②経営形態 ⇒**決定**
- ③2病院の機能の比較
- ④診療科目・医療機能・病床規模 →検討

第3回 医療機能等② 【5月下旬】

- ①診療科目・医療機能・病床規模 →検討

第4回 施設の活用方針 【7月上旬】

- ①診療科目・医療機能・病床規模 ⇒**決定**

※病床規模（病床機能・病床数）は、検討委員会での検討結果を基に、地域医療構想を踏まえ、県や関係機関と協議・調整した後に決定する。

- ② 2病院の機能分化、施設の活用方針 →検討
- ③経営シミュレーション →検討

第5回 経営シミュレーション 【8月下旬】

- ① 2病院の機能分化、施設の活用方針 ⇒決定
- ②経営シミュレーション →検討

第6回 まとめ① 【10月上旬】

- ① 経営シミュレーション ⇒決定
- ②検討委員会 報告書（案） →検討

第7回（最終） まとめ② 【11月上旬】

- ① 検討委員会 報告書（最終案） ⇒決定